

大型サーベイ・キュー

研究歴 ずばる 5 大型サーベイ・キュー観測					
			大規模サーベイ	キュー観測	その他
1	10年未満	4-8回	UKIRT の WFCAM サーベイのようなことができるシステムを、5-10年後に作ることは意義があるかもしれませんが、具体的な大規模サーベイの提案が出る前に枠組みを作ることだけ考えても仕方がないので、UM でしっかり議論されることを希望します。ノーベル賞級の研究を眺めると、これまでと手法は同じでただ大規模にただだけの研究は見当たらず、むしろ高いオリジナリティが評価されている気がします。日本の研究者が自由な発想で研究できる余地をつぶさないことも大事で、馬力ばかりに頼り続けると30-50年後にはサイエンスそのものが衰退してしまうような気がします。	既に UM で十分に議論されていると思います。僕自身は、SS に過剰な負担がかからないよう観測所の体制をきちんと整えた上であれば、キュー観測の導入に賛成です。ただ、クラシカル観測に比べ明らかに手間がかかるシステムなので「今後観測所の職員を増やさない」というポリシーが順守される以上は厳しいのではないのでしょうか。	
2	10年未満	9回以上	大規模サーベイの枠組みも必要。幾つかのグループが似たようなデータをちまちまと取ってデータを腐らせているようでは世界を相手に戦えない。	キュー観測は絶対に必要。classicモードは天体が出ていない時間が無駄になる上、天候等で優れた課題が1年で終わらないこともよくある。	
3	10年未満	4-8回	大規模サーベイや長時間のプロジェクトを可能にすることは大変重要だと思います。今のインテンシブプログラムを格段に拡大して、強い提案については年間50夜、数年間継続というようなプログラムまでを募集してもよいのではないかと。観測所プロジェクトと一体になっても構わないので、とにかく大きな夜数を戦略的に振り分けるダイナミズムを取り入れないと、今後は世界との競争に勝てないのでは。4m 望遠鏡が CFHTLS などのプロジェクト志向 になっていったのと同じと思われる。		
5	10年未満	9回以上	現状のintensive枠を凌駕する規模のプロジェクト観測を可能にする枠組みはぜひ積極的に検討していけるといいと思いますが、そういった大規模なプロジェクトを推進するチーム編成が極力オープンに行われるように留意する必要があります。そうしないと、一部の研究グループとの関わりがあるかないか だけでずばる望遠鏡のデータにアクセスできる可能性が大きく左右される事になり、ずばる望遠鏡の共同利用装置としての 性格が損なわれかねないと思います。	極めて多数の装置が運用されていて、頻繁に交換しながら観測が行われる現在のずばるのスタイルにキュー観測が有効 だとは思えません。今のスタイルのまま仮にキュー観測的な運用を行うと、単に高得点課題だけがデータを得るという事になるように思われます。その方がいいという考え方もあるかもしれませんが、個人的にはあまり積極的な支持ができません。	
8	10年以上	なし	国際的な競争力を考えると大規模プロジェクト観測などに一定の時間を割り当てる必要性はあると思う。そうしたプロジェクトを走らせながら一方でスキマを使ったサービス観測とは両立するのではないのでしょうか。		

大型サーベイ・キュー

			大規模サーベイ	キュー観測	その他
9	10年未満	9回以上	<p>大規模サーベイも、優れたインテンシブ提案を出せば済む話で、違いが見えません。そもそも年2回の定期的なプロポーザル公募以外の時期にプロポーザルを公募しても、発散するだけではないでしょうか？ そのようなことをして、優れた成果に結び付いている望遠鏡の例があるのでしょうか？ 説明不足だと思います。</p>	<p>キュー観測は、昨年度に反対意見がいくつか出され、賛同は少なかつたと記憶していますが、なぜ、依然として高優先度で議論されるのか、しっかりとした背景説明をする必要があると思います。特に、現在のすばる人員体制や現状（ある装置のソフトの、ちょっとした危険な部位の改訂ですら2年以上ほったらかし）で、とても実現できると思えず、発散するだけではないでしょうか？ キューは、撮像観測に関して言えば優れた面もありますが、分光観測では不向きであり、また、若い大学院生の育成、観測経験といった点でのマイナス面もあります。総合的に深く議論されているのでしょうか？ なぜ现阶段でキューという複雑なシステムを、かなり強引に導入しようとしているのか、その議論に莫大な時間を投入しようとしているのか、まともな説明のない現状では、理解に苦しみます。</p>	
10	10年未満	4-8回	<p>10年後の天文学の世界的状況を見越した際に、すばるが大規模サーベイの準備（特に主焦点カメラの威力を発揮する）を今整え、それを進めることはすばるのユニークさを来る10年を越えて維持することと期待しています。そのような大規模サーベイが可能になるようなプロジェクトの推進、観測体制の再整備の必要性を議論し、コミュニティーでその重要性のコンセンサスが取れば是非推進させて頂きたいと考えます。勿論、そのような可能性を議論する機会をできるだけ多く持つように調整して頂きたいと思ひます。</p>		

大型サーベイ・キュー

			大規模サーベイ	キュー観測	その他
15	10年未満	4-8回	<p>これまでにすばる望遠鏡では、日本のコミュニティの要望に対して、十分な観測時間を提供しきれていなかったのは確か(プロポーザル、要求夜数とも倍率が非常に高い)、そのために、観測が採択になかなかならない分野がどうしても出て来ていることには留意すべきである。そのような分野は、次の世代の超大型望遠鏡の時代によりやくすばるクラスが使えるようになるようなものも含まれるはずである。だから、「長時間に渡る大規模サーベイ」に完全に偏ることは、一部の分野の研究者には重要であっても、それ以外の分野の研究者にとっては大きな損失になることも考慮すべきである。長時間大規模サーベイを拡充する場合には、これまでの通常のプロポーザルの大きな妨げとなる形は避けるべきである。</p>	<p>一方で、キュー観測については、もっぱら観測所のやり良い範囲でのみ進められている状況だと感じる。長年、分光のキュー観測も取り入れるように要望が出ているにも関わらず、対応が全くとられていないからである。また、サービス観測を受けてみて感じたが、もう少しプロポーザルPIとの連絡をとった上で観測を実行してもらった方が、観測者にとっても観測所にとっても有効だと感じる。というのは、場合によっては、同内容の観測をバックアップ観測などで行う状況もありうるからである。</p>	<p>また、リモート観測の拡充も期待する。必ずしも出張がいつでもできるわけではないことはもちろんのこと、今後増えるだろう女性研究者への対応という意味でもリモート観測は拡充してほしい。(現状、働きざかりに入った女性の観測天文学者にとって山頂に毎回登らなければならないことは大きなハードルになり得ることを考えてほしい)</p>
17	10年以上	なし			<p>星雲・星団の位置測定、三角測量の誤謬を是正する。年間計画の効率化 ガンマーバースト候補天体の掃天</p>
18	10年以上	4-8回	<p>観測所が(観測所長が)責任を持って実行する形で、所長預かり時間を大きく取って、そこで実現するのはどうか。誰かがイニシアチブを取る形にしないと大規模サーベイのような時間のかかるものにはできないと思われる。そのかわり、大規模サーベイの結果については、観測所長が全責任を負うこととする必要がある。組織で責任を負っても、その所在は非常に曖昧である。(所長でないとしても)特定の個人が責任をとるといふうに、責任の所在を明らかにしておく必要があると思う。</p>	<p>ぜひとも早期に実現してほしい。現在のクラシカルな観測モードの重要性もあるが、50:50でキュー観測を入れてもいいのではないかな?</p>	
19	10年以上	4-8回			<p>若い人材を養成する場としての役割も必要だと思います。</p>
20	10年以上	2-3回			<p>近い将来の8m級望遠鏡の役割を考えると、ある程度サイエンスを絞りこんでそれに集中的な投資を行う方向性は必然であろう。そのためにも、長時間に渡る大規模サーベイ、それらの合間を有効に使うキュー観測によるサービスプログラムなど、あらたな方策はぜひとも積極的に実行してほしい。</p>

大型サーベイ・キュー

			大規模サーベイ	キュー観測	その他
22	10年以上	なし		いずれにせよ今後は次第にキュー観測によるサービスプログラムの要求が高まると思います。	
24	10年未満	9回以上	長時間に渡るプログラムが増えるのは必然だと思います。このようなプログラムで取得されるデータを用いてできるだけ多くの人が研究できるような仕組み（データ公開までの期間の見直しなど）が必要でしょう。また、前提として、現在の共同利用の形態が（夜数は当然減りますが）基本として残されるべきだと思います。	キュー観測については、多数の装置を運用する現状ではあまり有効だと思いません。重要なプログラムが確実に実行されるようにするには、別の方策を考えるべきだと思います。	
25	10年未満	2-3回	大規模サーベイを進めていくことに、賛成。私見では、半分程度を大規模プロジェクトに投入というのも、ありではと思う。2点要望は、コミュニティのデータへのアクセスしやすさと、使い勝手のいいアーカイブシステム。		
26	10年未満	9回以上	現状よりもっと大きなコラボレーションで、大きなサーベイが出来る枠組みがあると良いと思います。たとえばUKIDSやCFHTLSのような形です。		
27	10年未満	9回以上	すばるの特徴である主焦点広視野を生かすためにも長時間に渡る大規模サーベイを可能にする枠組みは是非必要。今のCFHTLSのようにたくさんの方がいる出来るデータセットが得られるようにすればHSCで年間100晩使っても良いと思う。		
28	学生	4-8回	多数意見になってしまうかとは思いますが、次世代において競争力を維持していくためのプログラムとしては、いまだできない、岡山の長期にわたる観測が必要な研究対象をすばるで行う、というようなことも将来的には必要ではないか。	隙間時間を利用したキュー観測、、、はやっぱ無理ですよね。それこそ、研究向けのキューでなくても、広報とか学校教育向けのキューとか。	
30	10年未満	4-8回		キュー観測よりも現在の体制の方が成果が挙げられると思います。	

大型サーベイ・キュー

			大規模サーベイ	キュー観測	その他
31	10年未満	9回以上		<p>キュー観測によるサービスプログラムの充実を希望する。 中間赤外域のとくに20ミクロン帯の大気透過率は、大気中の水蒸気量等に大きく影響を受け、そもそも観測ができるかどうかすら左右されることも多い（晴天時でさえ）。よって、これらの観測はキュー観測として条件の良いときに実行されることが強く望まれる。このように20ミクロン帯の観測はなかなか難しいのだが、それでもマウナケア山頂はかなり条件が良いので、VLT等の2000-3000m程度のサイトでは実質観測できない波長であると言える。 このアドバンテージを生かすことでユニークさを発揮できると思われる。</p>	
32	学生	9回以上			<p>ALMAが本格的な活動を開始したり、SPICAの数arcsecの遠赤外データ が得られるような時代に入る頃には、このようなプロジェクトとの相互 補間となる観測が効率的に行えるような、観測プログラムの割り当てが あると有効であると思う。地上ならではの空間分解能の観測は、おそらく 主流が30m望遠鏡によって担われるようになっていくと思われるので、こうした 時代には、10m級の望遠鏡では、多少、融通や余裕のある運用が可能になる と思われる。その際に、特にスペースミッションは期間が限られていて 相互キャリブレーションのために、急を要して地上での何らかのデータ 取得が必要となることも想定されるので、そういった各ミッション枠が 必要に応じて与えられるような工夫も必要で有効な活用の一つになると思う。</p>
36	10年以上	2-3回	長時間に渡る大規模サーベイを可能にする枠組みに賛成。		